

55 小節

小節 (small clause) とは、次の文の [] のように、主語と述語の関係があるが、動詞も補文標識も時制もない節のことである。

- (1) I believe [him honest].

このような文は学校文法ではSVOCの第5文型として扱われている。

(1) の小節を含む文と次の (2), (3) の文とは、論理的な意味では、ほぼ同じであると言える。

- (2) I believe [that he is honest].

- (3) I believe [him to be honest].

(1) は小節、(2) は定形節 (finite clause)、(3) は不定詞節 (infinitival clause) の例であるが、意味の面から考えると、小節は構成素をなしてい、節であると言える。

では、小節とされる部分が統語的にも構成素をなしていると考えられる根拠を見ていく。第1の根拠として、小節の主語位置に虚辞が現れることができる。

- (4) a. We consider *it* unlikely that John will win.

b. Nobody heard *it* rain last night. (Stowell 1983: 297)

- (5) a. I consider *it* time to leave.

b. Let *there* be light. (Radford 1988: 325)

虚辞は通常、目的語の位置には生じず、主語の位置に生じるものであるから、動詞の目的語ではなく、小節の主語であると言える。

第2の根拠として、イディオム表現が小節内で現れる。

- (6) a. The reporter will consider *the cat out of the bag*. (Bresnan 1982: 410)

b. I don't want *advantage taken of John*. (Stowell 1983: 297)

これらが小節内でイディオムとしての解釈ができるということは、小節がひとまとまりの構成素をなしていると言える。

第3の根拠として、主節の動詞を修飾する副詞が小節の主語と述語の間に入ることができない。次の例を見てみよう。

- (7) *I expect that sailor *sincerely* off my ship by midnight. (Stowell 1981: 258)

- (8) a. *I consider the mayor *myself* very stupid.

b. *I want him *very much* off my ship. (Stowell 1983: 300)

主節の動詞を修飾する副詞は、その動詞の目的語とコントロール不定詞の間ならば入ることができる。

- (9) a. Janice reminded Jenny *repeatedly* to turn down the music.
 (=Janice reminded Jenny to turn down the music repeatedly.)

(Stowell 1981: 170)

- b. John told Mary himself to leave. (ibid.: 190)

このことから、小節の主語は動詞の目的語ではなく、小節の主語と述語で構成素をなしていると言える。

第4の根拠は小節内の代名詞と再帰代名詞の分布である。

- (10) a. John_i considers Mary angry at him_i.
 b. *John_i considers Mary angry at himself_i.
 c. *John considers Mary_i angry at her_i.
 d. John considers Mary_i angry at herself_i. (Chomsky 1981: 290)

再帰代名詞は同一節内に先行詞が必要なので、小節が主節とは別の節を成しているということを示している。

第5に、小節の主語内からの要素の摘出は主語条件に抵触する。次の例を見てみよう。

- (11) a. *the man who we all found the brother of *e* boring
 b. *the friends that I consider the behavior of *e* exemplary

(Hoekstra 1988: 107)

- (12) a. ?*Who do you consider the oldest sister of *t* foolish?
 b. ?*Which book do you find the author of *t* very eloquent?

(Stowell 1991: 191)

よって小節の主語は動詞の目的語ではなく、小節内の述語の主語だと言える。

第6として小節が主語位置に来ることが出来る。

- (13) a. [Susan in New York] is what we must avoid.

(Hornstein and Lightfoot 1987: 32)

- b. [Workers angry about the pay] is just the sort of situation that the ad campaign was designed to avoid. (Safir 1983: 732)

主語位置に来られるものは单一の構成素をなしていると言えるので、小節も構成素をなしていると言える。

以上により、小節の主語と述語は統語的にも構成素をなしていく、節であると言える。

(野村 美由紀)